

第13号

ゾーエー

ゾーエー



ZOE 第 13 号目次

新入舎生自己紹介	2
卒舎生近況報告	4
五月映画会感想	6
聖書研究係の今年度の取り組み	7
日韓学生 YMCA 交流プログラム	8
屋上 BBQ 交流会	10
六月聖書研究の報告	11
編集後記	18

【新入舎生自己紹介】

2年 ○○○○

大学でトランペットを専攻して勉強しております、○○○○※1 と申します。

今年の春に信愛学舎に入舎してから約3ヶ月と少しが経ちました。自分は今回が初めて家族と離れて暮らす経験だったので、精神的に自立できるチャンスであるというポジティブな気持ちがあったと同時に、すごく寂しい気持ちになったりするのではないかと不安に思っていました。しかし、舎生みなさんが親切に優しく寮のことについて教えてくださったり、寮の活動や日々の生活の中で顔を合わせる時に、それぞれの目標に向かって励んでいる素敵な舎生みなさんの姿を見ると自分も自分の分野をさらに極めて行こうと励まされますし、一緒に生活することができて勉強になることも多くあり、有り難く嬉しいという前向きな気持ちになっていました。

先日初めて映画会に参加して、同じ映画を同じときにみんなで一緒に観て感じたことをシェアする時間がありすごく有意義でした。忙しい学校生活の癒しと励ましとなりました。

月1回行われる聖書研究会は、信愛学舎に入る前からとても楽しみにしていましたが、やはり貴重でとても意味のある会だと感じています。今までクリスチャンホームで育って教会に通っていた私ですが、ノンクリスチャンとクリスチャンと一緒に、聖書という書物に関して意見を述べ合ったり、考察できるということは、今までなかなかなかった体験ですごく面白く感じています。クリスチャンの私にとっては、聖書を読むということは神様がどういう方であるかを知ることにもなるので、神様と自分の関係についてまた新たなヒントを貰える時間でもあります。

寮で生活しているとまだ知れているのは一部でしかないと思いますが、いろいろな仕事があってその役割を担ってくださっている方々（舎生も含む）のお陰で安心して勉強に集中できたり、仲間と寮生活を送る事ができる環境が整っているのだなと感じることがたくさんありました。

今、自分は音楽学部の器楽専攻というところで主に楽器を演奏することについて学んでいます。音楽といってもたくさんのジャンルがあり、今自分はソロ（ピアノとのデュオ）、吹奏楽、オーケストラ、室内楽（金管楽器のみでのアンサンブルなど）を実際に授業やレッスンで取り上げてアドバイスを頂いたり、練習で仲間と楽曲についての理解を深め、よりよい演奏を目指すことをしています。

近年は特に、芸術ができることについて考えるきっかけが多くありました。

音楽に食べ物や飲み物や酸素など、身体が生きるために必要なものを直接生み出す力はありませんが、聴く人の心を強く動かす、そして明日も生きようという希望を見出すことができる力があると私は考えています。

実際にこれまで演奏会やボランティアで様々な年代の方々に音楽を届けた経験がありますが、聴いてくださる方々と過ごす時間や終演後に直接話しかけてくださった人の言葉たちから、音楽は言葉がなくても心で通じることができる、かけがえのない手段であると感じました。

私自身が日々を生きる中音楽を含むすべてのことで感じる感動と人とのつながりを大切にしながら、芸術を通して世の中に貢献できる人材になりたいと考えています。

信愛学舎での出会いはもうすでに自分にとってかけがえのないものです。

まだ将来の明確な働き方は示されていませんがそのことも祈りつつ、信愛学舎で今しか経験できない共同生活から、人間としての力を養ったり、楽しい時間を持ちながらも、神様から与えられた自分と周りの人々を大切に、学生生活を悔いなく過ごしたいと思います。

<一問一答>

1.みんなに聴いてほしい曲

2年前くらいに You Tube にアップされた「Bizet Intermezzo カルメンより」です。

(YouTube の URL : <https://www.youtube.com/watch?v=T7zYsyPvYiY>)

バレンボイム指揮ベルリンフィルでパユさんが美しいフルートを奏でています。信じられないくらい美しいです。有名な旋律ではありますが、静かなところで聴いてみてほしいです。忙しく流れる時間を忘れられるひと時になり、疲れが癒やされると思います。

悲しいときはマツケンサンバII (<https://www.youtube.com/watch?v=XazyhnymUQo>) が私には効きます。

2.好きな賛美

- ・「もしも私が苦しまなかったら」
- ・「すべての良きもので」
- ・「私たちのこの口は」

3.譲れないこだわり

あんこはこしあん派 (譲れないわけではないけれどご飯は硬めが好き)

4.好きなキャラクター

結構たくさんいますが、PEANUTS のスヌーピーの兄弟のオラフが可愛くて好きです。

5.挑戦したいこと

語学の習得

海外の指揮者や演奏家、演奏仲間ともコミュニケーションが円滑に取れるようになりたい
もちろん身近な人とも。

※1 本人の希望で名前を伏せております

【卒舎生近況報告】

近況報告とエンジニアの目標設定の仕方について

2022 年卒舎 フラハティ陸

ゾーエ編集部から近況報告の執筆依頼を受け、とても嬉しかったです。同期と「ゾーエ」を創刊してから何年経ったのかな、と考えてしまいます。休刊も何度かありましたが、ここまで続いていて、OBになっても皆にメッセージを送ることができることはとても嬉しいです。仕事を始めてから、多くの知識を得ています。自分の今のライフステージと信愛学舎で学んで仕事で活かしていること、会社で学んだ目標設定の仕方の3つを共有します。興味を持ってもらえるような内容であればいいと思います。

一年目の社会人として、学び成長することが私の責任です。エンジニアとして最新の技術を理解するだけでなく、人生のステージが常に変化していることを考えると、社会人としての生活には継続的な学びが重要だと感じています。ゴールデンウィークには、小学校時代からの幼なじみの結婚式に参加しました。友人は高校卒業後にアメリカの看護学校に進学し、看護師となり、複数の職場で経験を積んできました。アメリカで出会った人と結婚しました。披露宴では一緒にテーブルを囲んだ幼なじみたちは、インドでの海外出張を経験したり、子供の二人目を迎えたり、結婚後に大学に戻る準備をしたりと、新たな人生のステージに進んでいます。友人の結婚式は同窓会でもあり、新たな人生のステージへの入り口を自覚し祝う場でもありました。公園や遊園地で一緒に遊んでいた友達と二次会でバーに行ったのはとても不思議な感じでした。皆が大人になったんだなあと感じました。しかし『High School Musical』の曲を大音量で歌って踊っていたら、騒音で警察が来てしまいました。まだまだ若いですね。

仕事では、信愛学舎で鍛えた聴く力を活用しています。自動車の開発には何万人もの人が関わっています。海外の技術センターや調達担当者とのコミュニケーションを取るだけでなく、サプライヤーとも関わります。各地域や企業、部署ごとに異なる責任と優先順位があります。自身と所属部署の責任を果たしつつ、さまざまな立場の人々の要望にできるだけ応える必要があります。そこで信愛学舎で学んだ相手の言葉から立場や考え方を理解する力が活かされます。先日、ソフトウェア開発会社と会議がありました。相手は最新バージョンのソフトウェアを開発車両に搭載し、検証を行いたいと言ってきました。しかし、私たちは信頼性の観点からさまざまな評価を行った後で仕様変更はできません。ソフトウェア開発のサイクルと自動車開発の期間の違いから、この相違に気づけました。

会社で最も役立っているのはデータに基づく評価だと思います。プロジェクトや業務に関する全ての指標と目標基準を定め、データを収集し評価しています。問題が発生した場合にはその原因を明らかにし、対策の効果を評価するのに役立ちます。手間がかかることもありますが、大規模かつ複雑な開発プロセスを進め、リソースを適切に割り当てるためには重要な要素です。

個人レベルでも同様の評価を行っています。自分の仕事をどのような指標で評価するか設定し、各項目の重要度を決めます。各項目に対して1年間の目標値と最低基準を設定し、定期的に進捗を確認します。最低基準未達成の場合は0ポイント、達成した場合は0.5ポイント、目標値達成で1ポイントとし、それらの間は0.1ポイント刻みで評価を行います。重みをかけて合計を計算することで総合評価がわかります。数値化することで自身の目標にどれだけ近づいているかを把握することは、良い目標設定の手法だと考えています。

表 1 目標設定方法の例

指標	重み	最低基準	目標値	実際の値	評価	評価×重み
月曜の朝までに掃除した率	0.3	80%	100%	90%	0.7	0.21
朝の会の出席率	0.4	75%	95%	80%	0.6	0.24
聖書研究の出席率	0.3	75%	95%	90%	0.8	0.24
総合評価	1					0.69

まだまだ仕事ではいろいろと手探りで、自分の役割がまだ決まっていないですし、毎日の会議やメールは部署の用語でいっぱい、暗号解読しているようなものです。大変ですが、楽しんでます。会社では数字と目標を重視し、目標達成度を数値化して評価することで、ゲームのように自分自身をレベルアップさせているような感覚があります。まだまだ勉強中ですが、とにかく楽しみながら前進している感じです。未来に向けて、充実したエンジニア人生を歩んでいきます。

【五月映画会感想】

“無償の愛”

2年 宮平誠一朗

今回の映画会ではアレックス・ケンドリック監督の『ファイアー・ストーム』という映画を鑑賞しました。僕がこの映画から学んだものは“無償の愛”です。

この映画は自分本意で結婚生活がうまく行かない主人公ケイレブが、あるノートを読んで離婚までの40日間の猶予の中、自分を見つめ直していき葛藤もありつつ、少しずつ考え方、性格を変えていく話です。

個人的な感動ポイントは、ケイレブが父親に向かって「自分を愛してくれない人を愛するなんてムリだよ!!!」と激昂するシーンです。ケイレブは父親の勧めにしたがって妻に優しくしてみるのですが、全部妻に突っぱねられて傷ついて怒るのです。私もケイレブの妻にもう一度振り向いてもらうための献身的な行動と、その行動に対する妻の素っ気ない反応だったり他の男に揺れ動いている心を見ていてとてもやきもきしてしまいました。

しかし、ケイレブが父親と墓地で語るシーンで聖書を学んでいく過程で知った“無償の愛”という言葉の思い出しました。今まで聖書研究の中で時折出てくるワードではありましたがいまいち実感することは出来ませんでした。イエスは何の罪も無いのに十字架にかかってくださりました。自分を愛してくれる人を愛するのはたやすいですが、イエスは「汝の敵を愛し、迫害するもののために祈れ」と述べ、自身でそれを実行されました。

この映画を見て、寮生の、特にキリスト教徒の方といつも会話してる中で時折疑問に思うようなところの考え方が理解できました。無条件の愛を注ごうとする努力が自分を優しさで満たしていき、その優しさで満たされた相手も変わっていく。そのことを知り行動することに遅すぎるということはない。無条件の愛を注ぐなんて簡単にできることではない、けれどだからこそ人の心を動かす。やり直せない関係なんてないのかもしれないと思いました。

無宗教の日本人には宗教は馴染みがなさすぎて受け付けられない時もあるけど、素敵な考えだったり、教えもあります。今回はそんな素敵な教えに触れ合えて参加して良かったです。



【聖書研究系の今年度の取り組み】

“失敗”なんてものは存在しない

2年 佐藤光世

今年度、私は早稲田大学 YMCA 信愛学舎の活動として聖書研究をメインにやらせていただいている。今年の聖書研究会はまったく新しい試みをしている。なぜわざわざ新しいことをしようとするのか？ それは単純に「私自身の性格が、いつも同じことをするのが嫌いだから」だけではない（それがほとんどをしめているかもしれないが...）。人が長い間同じことを繰り返していると、マンネリ化を起こしその物やイベントに興味を無くす。興味がなくなれば、こういった活動を通して学べるはずの本来の目的を失い Task へと変わる。ただの Task になれば手を抜く方法を考え、どうにかして「終わらせること」を考える。これでは、信愛の聖書活動は実りのあるものとは言えないのではないか？ 今がそうだと言っているのではなく、これからそうなり得ることが怖いのだ。ただでさえ一人一人が鬼忙しく、時間がない中、信愛の聖書研究会のために2時間をささげているのであれば、その時間が可能な限り舎生の明日からの生活に“活きる”時間であることを願いたいのだ。

ここからはプラクティカルな話になる。今まで（私がずっと信愛にいた訳ではないし先輩たちから聞いた少ない情報量での話なのだが）の聖書研究会や聖書活動は、聖書についての「知識を得る」ということがメインであった。しかし今年は「知識を得る」という段階からもうひとステップ踏み込み、「その知識を使いどう生きていくか？」という、個人レベルまでもっていくことを、最も大きなテーマとして一年間を進めていきたいと考える。知識を得るということはとても重要なことである。しかし知識を得ただけでは何も起きない。ロシアの劇作家、アントン・チェーホフは「知識は実践されなければ価値がない」という。私も同意見だ。自分が得た知識は何かしらの自分の行動として可視化されたときこそ本当の価値を見出すことができると思っている。

ノンクリスチャンもいるこの寮で、宗教的な実践をするということに反対の声が上がることは当然であろう。さらに言えば、今年のこの“改革”は初めてのことで、3ヶ月たつ今も何が正解なのかは正直分からない。もしかしたら、これから正解の道を見つけ出し、成功した聖書研究会だったといわれるかもしれない。もしかしたら最後まで正解を見つけ出すことができず、失敗であった聖書研究会といわれることもあるかもしれない。しかし私は信愛学舎の聖書研究会をもっと長いスパンで見たいと思っている。今年のこの新しい試みがどちらの方向に転がるかは関係なく、信愛学舎の聖書研究会で、何かを考えるきっかけになればと思っている。今年1年間だけでみると失敗だと思われた今年の新しい試みも将来の聖書活動で何かしらの参考となり、当時の失敗を克服することができれば、今年度の“失敗作”が「成功のカギ」であったといわれる日が来るかもしれない。憶測だけでリスクを考え、何もしないことこそが何よりの失敗である。何事もおそれず挑戦してみたい。

【日韓学生 YMCA 交流プログラム】

日韓学生 YMCA 交流プログラムに向けて

4 年 西川 励花

新型コロナウイルスのパンデミックが収束しつつある中、日本から海外に出かける人々や日本を訪れる外国人観光客が増え、街中に活気を感じるようになりました。最近ではこれまでコロナの影響で実施できなかった様々な国際交流プログラムが再開されるようになり、私が今回企画準備に携わる日韓学生 YMCA 交流プログラムも、コロナ後初の開催となります。

私は以前、実際に参加者としてこのプログラムに参加したことはありませんが、大学生活を通して韓国語や韓国文化に親しみを持つようになり、韓国の方々と交流する機会にも恵まれました。その中でやはり日本との文化的相違や歴史的な溝を感じる瞬間も少なくはなく、韓国の学生と社会問題や歴史観に本気で向きあったり、お互いの国について語り合えたりできるような機会があればいいなと思い、このプログラムに参加することを決めました。ここでは、私たちがどのようにこの企画準備を進めているのか、その様子を少しご紹介したいと思います。

<視察プログラム>

2023 年 3 月、このプログラムの企画に携わる学生の募集が全国の学生 YMCA を通して行われ、私を含め 4 名の学生が企画委員として集まりました。意外にも関東学 Y からの参加者は私のみで、他の学生は関西、九州の学生で、他地域の学生と関わるのは初めてだったので最初少し緊張しました。またその際に、韓国への視察プログラムの募集もありました。実際に韓国まで足を運び、現地でのフィールドワークや韓国の学 Y スタッフ、学生代表の方々との顔合わせ、簡単な交流を行うことが目的でした。

日程は以下の日程表の通り。日本人側の移動も含めた 2 泊 3 日となったため、現地での活動時間はそこまで長くはありませんでした。また、実は私は渡航の前日にかかとを怪我してしまい、しばらく日常生活での歩きに支障が出てしまったため、この視察プログラムには参加できませんでした…。なので

、帰国後のミーティングでの活動報告や、日本側の参加者の感想を紹介していこうと思います。決定事項としては、今回のプログラムは日本側がホストとなって開催すること、開催期日を 2024 年 2 月 15 日～19 日の間 3 日あるいは 4 日とすることが伝えられました。

日 程:		
24日 (金)	午前	関西国際空港集合、出発 (TW9282)
	午後	仁川国際空港到着、ソウルへ移動
	18時	韓国学Yと合流、キム・ギョンミン総主事との夕食会
25日 (土)	10時	開会礼拝
		日韓の学生YMCA現況報告
		学Y日韓交流についての目的、歴史などを確認
	午後	フィールドワーク
		・ 戦争と女性の人権博物館 (慰安婦問題に特化した博物館)
		・ ソウル市役所前広場 (梨泰院事件犠牲者追悼の献花台)
		・ 伝統市場 (カンジャン市場、夕食も)
	夜	ディスカッション (次回の日韓交流について)
26日 (日)	9時半	ディスカッション (今回のまとめ)
		閉会礼拝
	午後	仁川国際空港へ移動、出発 (TW285)
		関西国際空港に到着、解散 (18時ごろ)

具体的な感想としては、「慰安婦に関連して考えた戦時下での女性への性暴力という視点での議論が韓国学生とうまく噛み合わなかったように思う」、「現在も休戦中であるという事実や、軍隊が私たちより身近にあることを実感した」、また、「日本人として、個人として、女性として、と色々な視点で考えることだけでなく、どの視点に立って発言するのも意識することが大切だと感じた」などというコメントがあり、その場には参加できなかった私にとっても非常に共感が持てるような内容でした。特にフィールドワークの一環として慰安婦問題に関する史料館を訪問したということもあり、軍隊や歴史問題に関する議論も多くなされたようで、日韓の学生同士でそれらのテーマについて語ることの難しさを目の当たりにしたというような印象を受けました。

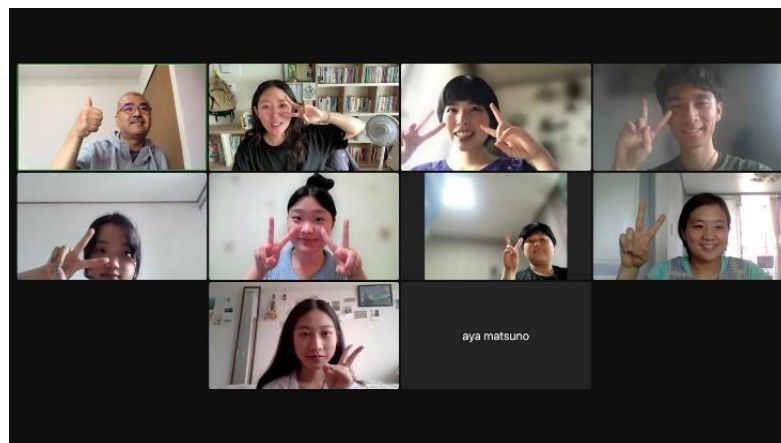
<日本でのオンライン会議>

帰国後、これまで三回のオンライン会議が行われました。一回目と二回目はそれぞれ5月と6月に行われ、日本側のスタッフだけで集まって具体的な開催場所やそれらの場所でできること、訪問できる施設など、今回の日韓交流プログラムの大まかなテーマなどについてアイデアを出し合いました。最終的には私たちで東京、関西(大阪・京都)、長崎にまで絞り、そこで具体的に何ができるか、どのようなテーマを設定できるかなどについてまとめ、三回目の会議に臨みました。

三回目の会議は6月末に、日韓のスタッフ合同で行いました。韓国側と日本側、それぞれに両方の言語を理解できるスタッフがいて、他の日本人学生、韓国人学生がそれぞれした発言を同時通訳する形で会議が進められました。外国語を勉強している身からしてその光景はとてもわくわくするものでした。会議内ではそれぞれの候補地に関する発表を行い、質問やコメントを交えつつテーマの方向性を定めていきました。

参加者の学生から出た意見として印象的だったのは、「最近日本に旅行しに来る韓国人観光客が非常に増えてきているが、日本で観光中に嫌がらせ行為やあまり良くない発言をされ、嫌な思いをして帰ってくる友人や知人が少なくない」という韓国の学生のものでした。特に大阪でそのようなことが良く発生しているらしいのですが、日本国内で韓国人観光客に対する差別が日常的に起こっていることに大きな衝撃を覚えました。その意見をきっかけに、近年こそ若い世代を中心に日韓交流が盛んになってきているが、未だに歴史問題や文化の違いを基にした「嫌悪感」みたいなものを両国の国民がどことなく抱いてしまっている部分があり、未だに「近くて遠い国」になってしまっている気がする、といったコメントが出てくるようになりました。最終的に、日本と韓国での歴史観や価値観の違いなどについて話し合い、それを理解した上で今後の日韓関係や両国民同士の関係性をより良くしていくにはどうしたらいいか、日韓関係の現状を見つめなおし、相互理解への道筋を見つけていくという方向性に決定しました。漠然とした情報や幅広い意見の中からテーマ決めるを行うことは想像以上に難しいことではありましたが、結果的にこのテーマに決定した背景として、やはり再び日韓交流が活発になった中で、お互いの国同士について語り合う必要性みたいなものを、全員がどことなく感じていたのかもしれないですね。開催場所は韓国側の学生の希望もあり、大阪・京都になりました。

この日韓交流プログラムは
学生 YMCA の中でも比較的
大きなプログラムのうちの
一つです。参加してくれた学生
が有意義な体験をして帰れる
よう、今後もプログラムの準
備に力を入れていきたいです
。韓国や国際交流に少しでも
興味のある方、新しい環境に
飛び込んでみたい方のご参加
をぜひお待ちしております！



【屋上 BBQ 交流会】

7月8日（土）に屋上 BBQ を開催しました！ 寮生 10 名に加えて幅広い世代の OBOG の
方々、関係者の方々 11 名にお越しいただきました。歴代+未来の寮長を並べるとなんと 8 代
連続で集まりました！ 寮の上級生にとってはすでに卒業された懐かしい先輩方との交流が
でき、また下級生の舎生にとっても OBOG の方々とお話する良い機会になりました。卒
舎された先輩方同士も久しぶりに顔を合わせる機会となったのではないのでしょうか。
今回の BBQ 開催にあたって準備を手伝ってくれた舎生メンバー、また差し入れやカンパを
下さった OBOG、関係者の方々に心より感謝を申し上げます。今後もこのような楽しいイ
ベントや、近隣の学舎である友愛学舎と山手学舎との交流、サークル会員・寮生募集に繋が
るような企画もできたらと思っています。今後とも寮活動・YMCA 活動へのご支援・ご
参加をいただけると幸いです。本当にありがとうございました。



今回は、KKG 主事の島田祐さんをお呼びしてリードしていただきました。キリスト教入門として、学びを深めつつ創世記 3 章の、文脈や気になったところを色鉛筆でマークしながら疑問を引き出していく白文聖書研究を行いました。

なんでイチヂクなのかな。どんな植物か、色んな生き物が存在するのか。

皮の衣をどんな思いで着せたのか？

面白いなと思ったのは、いちじくの葉を綴り合わせていうところで、神様は、好きにとって食べていよって言ってたけど、それってある意味、その時ってまだ人間と神様ってのが、ある意味はこう、土地を管理する共同体的なものとしてこう言ったんだけど、そうじゃなくなったところでこうもぎ取るっていう行為が、これはもしかしたら聖書内に言う**人類初の環境破壊なのかな**って思った。

なんで蛇は実を食べちゃいけないっていうのを知ってたの？

「あなた方が神のようになって、善悪を知るとなることを神は知っているのです」

神は 自分に似せて人を作ったのに、神のようになってはいけないの？

食べてから 1 番最初に知った悪が裸であることだと思っただけですけど、**裸=悪っていう認識はどこから来たのか？**

純粋に**彼って誰**のことさしてるのか

神様はの感情的に怒るのかな。どういう言い方で言ったんだろうな。

夫が**支配**するって書いてて、夫が支配することをちょっと正当化してるのかなってちょっと嫌な気持ちになった。敵意をおくっていうのは、以前は敵意というものがなかったのか？蛇がそそのかした時点でそれは「敵意」ではないのか？

善悪の知識の木、いのちの木があって他にどんな木があるのか

アダムっていう人物が出てくると思うんですけど、人とか夫っていう言い方をされ続けてきた中で、急にここでアダムっていう言葉を出してきたのが、何かあるのになって思いました。

ケルビムってなに？

我々のうちの 1 人のようにというのはどういうことか。

「彼女が生きるもの全ての母だから」がわかんなかった。

? 木の实を食べるシーンで、死の定義とは なんなのか
なぜ死ぬと言われたはずなのに、食べたことの結果は、目は開かれ、自分たちが裸であることを
知っただったのか？ここら辺の質問を考えてみよう。



死の定義は僕の中では2通りあって、1つは、平たく、神様がある意味脅しとして、
食ったら死ぬぞっていう脅しの脅し文句として死っていうのを使った。
もう1つの死は、神様が希望的ものを持って、人間っていうのを作ってる
と思うんですけど、人間として生きていく 人間のアイデンティティというか、
そういうものの死っていうのになるのかなと思う。(舎生)

アイデンティティの死っていうのは、いい表現かも。
人間存在の希望とか、夢とか、良きものであることが、死んでしまった。



なんかその、毒で死ぬとかではなく、死ぬ運命になったというか。元々与えた永遠の命を失
って死ぬ運命になったことかと思った。(舎生)

確かに。必ず死ぬとは言ってるけどすぐ死ぬとは言っていないもんね。



? 「神のようになって、善悪を知るものとなる ことを神は知っているのです」っていうとこもいくつか
質問が出たんですけど、神のようになるっていうのはどういうことか、とか、善悪を知ってはいけ
ないのかとか、神だけがなぜ善悪を知ってるのかとか、そこらへんの質問はどう思いますか。

善悪を知るということから裸であることを知ったっていう結果がこっちの方がしっくりくる。
"死ぬといけないから"だと死んでないし変だけど、裸であることを知ったというのはなんか
知るっていうワードが重なってるからわかりやすい。でも、その善悪を知った結果、
裸であることを知るっていうのは知らなくてよかったことを知ったような感じ。
神様は良く美しいものとして作ったのに、それを恥ずかしいと思って
隠そうとするっていうのは、なんかちょっとおかしいな。(舎生)



善悪を知るって言って、僕らにとってはなんかいい響きがあるけど。
ここでは、そういう意味じゃない気がするってことか。



善悪を知るっていうことは、何がいいのか何が悪いかを人間が判断できるようになる
ことなのかなって。あなたの方が神のようになってっていうのが、わざわざその文言がついて
ることによって、人間が神が裁けるように自分もなりたいたってことかなって。(舎生)



元から神のように似せられてるのに、
神のようになるっていう誘惑は善悪の判断者となる誘惑なのかもね。



人間からして、その人間がなくて神がもっているものが善悪の判断でそこが人間には欠けて
るから、神と人間との違いを強調してるように思う。(舎生)

蛇は人と神の違いを超えさせようとしてきている様子がわかるね



多神教、一神教のちがい

我々って神様は1人じゃないの？ギリシャ哲学的な印象がある。(舎生)

ユダヤ教以外は、ほとんど多神教なんです。唯一神の思想自体が、ヘブライズムから出てきていて、旧約聖書は、本当に強固に一神教なのね。でも、ちょいちょい、こういう我々っていうのが出てくるわけ。いろんな解釈の試みがあって、いろんな表現、解釈がされてきてるけど、聖書が、旧約聖書、新約聖書集まって1つのものとして読まれていく時には、なんていうかな。

サスペンス小説みたいな感じで、最初犯人の証拠がちょっとずつしか出てこなかったけど、読み進むうちにつれて、犯人はこういうヒゲをしているとか、犯人はこういう服を着てるとか、犯人は身長182センチだとかっていう風に分かってきて、最後まで読むと、本当は犯人はこういう人だったってわかるみたいな感じで、

聖書もちゃんと知らないふりをして、1章1節からちゃんと読んでくと、「なんか我々とか言ってるな？、おかしいなー？」みたいな。「でも、絶対神は唯一って言ってるなー」とかって言って、ちゃんと読んでくと最終的にこれが実は最初からこの父子聖霊の交わりを持った愛の神だったんだっていう風に分かるようにこの聖書はデザインされている。

そう、我々のうちの1人のようになるっていうのは要は「神のようになり」っていうのと、言い替えてもあると思います。ちなみに僕、元々哲学を勉強してたんで、加えると...この父子聖霊の愛の神っていうのは、その哲学的観点から言っても非常に重要で。っていうのは、**本当の一神教の神の場合**、一神教っていうか神が1つの神で、そのうちに愛する対象がないってなると、論理的に言うと、**神が人間を作った理由は、神が愛する対象を必要としたからってことになる**んですね。そうすると、神は初めに神が存在した状態では完全じゃなかったっていうことになるから、その時、**愛を持ってなかったってこと**になるんです。なので、ユダヤ教の神とイスラム教の神は旧約聖書を僕がシェアしてるので、多くの場合、聖書に書かれている性質は僕たち共有してるけど、決定的に違うのは、彼らの神は僕らと関係性を持ってくれる保証がないということです。だから哲学的に言えば、愛がないんですよ。この存在に。愛する対象が存在しないからね。でも、**父と子聖霊の三位一体の神っていうことの存在の重要性は、神様、愛し合ってる**んですよ。この交わりの中で最初から、世界の始まる前から、神様は誰も必要とせず、愛の永遠の交わりの中で生きてたわけです。だから、その愛から溢れ出るようにして僕らが作ってくれたのであって、僕らが必要だから僕らを作ったわけじゃないし、かと言って愛することができる方なので、僕らを愛することもできるっていうことなわけです。

さて、最後のところで、もう少し僕のストーリーをわかちあって、最後終わっていきたいんですけど。**神様は、人生を楽しめて言われたんですよ。**ただ1個だけの約束。
”僕らとの愛を保つために、この善悪の知識の木からはあえて食べないで、私を選んでね。そして、この世界をケアし、愛することを選んでね”っていう風に言ったわけです。

でも、悪魔は、あ、悪魔はって言っちゃったけど笑

この蛇も、さっきの、その、我々っていう神、初めに神がって言って、我々って言って、最後までちょっとずつ読んでくと、ネタバレがされてって、最後、父子聖霊なる神だってわかるって言ったように、この蛇も、ずっと蛇のモチーフは、旧約聖書で出続けるんですよ。なんと蛇の場合は最後の黙示録まで行って、それが悪魔だったのがわかる。わぁネタバレがすごいな笑



ー 3章を再び総括してー

直接神と約束を交わしてない女が狙われたーここで男と女の関係性も壊そうとしてきている訳です。Mさんが、「支配するって嫌だなと思います」って言ってたけど本当に嫌ですよ。それは今も起きていることで、男性が女性を支配してしまう（男性が男性、女性が女性もあると思うけど。）それは結局、この最初に神さまとの信頼関係を失って、お互いに責め合うように、信頼関係が壊れてしまったから、今の世界は、自然搾取が、また互いへの搾取が始まっていくわけです。そして、エデンの園を追い出されて、神様の父子聖霊なる神様の愛の交わりからも追い出されたわけです。

この物語がここで終わったら、本当にデッドエンドなんですけど、HappyHappy から、こういうBadBad になって。でも、残りの聖書は、（これすごいよね）創世記1・2章だけが良かったとき。で、3章からずっと悪いんですよ。ずっと悪いし、でもその3章からは全部、**どうやって神様がこの失われてしまった人間を自分の元に引き寄せるかっていう、愛の物語**なわけです。

本当にすごいなと思うんですよ。

だから、これもまあネタバレ覚悟で言ってしまうと笑

最終的にずっと旧約聖書の中で、人間を、失われた神の形としての人間を、神様の家に戻す、父子聖霊なる愛のうちに戻す、あのエデンの園の美しい関係性に戻すって言われる神様が、そういう人を送るよ、そういう人へ送るよ、そういう人を送るよって、言ってきたわけです。

それは、僕の友人の言い方をすると、隠れミッキーみたいな感じで、旧約聖書を読むとずっと隠れミッキーが出てくるんですね。

隠れミッキーっていうか、隠れイエス・キリストが出てくるわけなんですけど、これはもう既にこの時点で出てるんですね。その、さっき**彼**って誰ですかっていう風に質問が出たけど、

”神である主は蛇に言われた。お前はこのようなことをしたので、どんな家畜よりも、どんな野の生き物よりも呪われる。お前は腹ばいで動き回り、一生塵を食べることになる。私は敵意をお前と女の間に、お前の子孫と女の子孫の間に置く。**彼**はお前の頭を打ち、お前は**彼**のかかとを打つ。”

この彼っていうのは、直接の文脈で言えば、女の子孫のことです。

ここで宣言されているのは、イエス・キリストが出てくるということを直接言うより、女の子孫から、蛇、つまり悪魔の頭を打ち砕いて、でも、**かかとに 噛まれるっていう苦しみを通して、人を悪魔の策略から救い出す”彼”**がやってくるよってことがこの3章で語られているということです。あとはもう、この旧約聖書を読んでいけば、「この女の子孫ってどんな人なの。」「こういう人だよ。」「女の子孫ってこういう人なの。」って感じでどんどん絞られてって、その絞られていった先で出てくるのがこのイエス・キリストなんです。

完全に神様の愛と正義を体現した神の子イエスキリストがこの地上にやってきて、私たちの罪のために死んで、蘇られて、この家に帰る道、エデンの園に帰る道、父子聖霊の愛の交わりに帰る道、父子聖霊の神様と一緒に、この世界を愛と正義によって収めていく道を切り開いてくれた。



—放蕩息子の父の家への帰郷とともに自身の証を語る—

僕は本当にお父さんである神さまに愛されてるってことがわかんなかった。だから色々したら、認めてくれば、愛されるだろうって色々頑張ったけど、お父さんは、いや、愛してるよ？って。そんなことしなくても、いつも一緒にいるじゃん！だって全世界を作った万軍の王である主がこの世界全部お前のもので、楽しんでいいよって言うてるのに、悪魔が神様は何も楽しんじゃいけない、喜ばせるためにお前を奴隷みたいに働かなくちゃいけないみたいに言ったみたいに、僕もその嘘を信じ込んでいた。でも、そんなことしなくても愛されてて、この世界を喜び、楽しんでいいんだってことに気づかされました。自分の自己中心が、最終的にこの世界のあらゆる悪に繋がっていくことを気付かされた時に、この罪の問題は解決されないと、父の家には戻れないと思ってた。でも、父の家の鍵を開けてくれたのはイエス様ですね。イエス様が僕たちの罪を背負って、全ての罰を、神様の怒りを背負って死んでよみがえられた神殿がられたから、家に帰れる鍵が開いたんです。

ローマ人への手紙 4 章の 25 節というところには、使徒パウロという、イエスをヨーロッパ中に、そしてアジア中に広めた人がこういうことを言っています。

”主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、
私たちが義と認められるために、よみがえられました。”

義と認められるというのは、この**父子聖霊なる神様と正しい関係を持つ**ってことです。正しいってのは、なんていうかな、正しいというだけじゃなくて、良い関係、愛の関係、つまり、あの最初の関係に戻っていくということです。父子聖霊の中で愛されて、男と女、男と男、女と女が互いに愛し合って、そして、この世界の動物、植物、この世界を愛していく。互いに愛し合って行く正しい関係の回復のためにイエスは死んでよみがえられた。

Good News

これが、聖書が語るキリスト教の福音、良い知らせですね。

イエス様が死んでよみがえられて、聖霊を送ってくださったってことを信じる時に、私たちもこの**父の家の元に帰る旅路**に入られます。

神様の愛の言語はキリストなんです。

しかも、究極的に言って、言葉だけじゃなくて、イエス様は全部したわけですね。イエス様は天にいて、永遠の愛の交わりを父子聖霊なる神さまと楽しんでたのに、わざわざこの地上に降りてきて、僕らたちのために 33 年間過ごされた。永遠に過ごせる方が、33 年間制限されたところを暮らすって、すごい大変なことだと僕は思うんですけど、でもイエス様は**時間をくれました**。

そしてイエス様は**たくさんの愛の言葉、正義の言葉、真理の言葉、義の言葉、清い言葉**を語りました。だから、この福音書っていうのは、イエスの言葉で溢れてるわけですね。それは、それだけイエスが語ったってことですよ。ぜひ福音書 4 つ全部読んでください。そしたらわかるのは、イエス様、何回も同じこと言うんですよ。しかも、違う言い方が色々されてるわけ。あれはね、同じ話を何十回も語ったってことです。同じ人と違う人たちに向けて、届くまで届くまで、覚えるまで、覚えるまで、何回も声が枯れるように同じ言葉を語ったから、いろんなバージョンがあるし、いろんな人によって記述されてる。

そうやって、本当に言葉を尽くしてくれたってことです。そして**奉仕**もしてくれました。病を癒しました。悪霊に取り憑かれている人から悪霊を追い出しました。そして、実際にそういう強いたげられてる人、貧しい人たち、

落ちぶれている人たちの元に行って、一緒にご飯を食べ、お酒を飲んで、手を触れて、癒し時間を過ごして仕えられました。そして**実際に触れられた**んですよね。

—マルコ 7：31～37 を語る—

そして最後、十字架の上で**命を僕たちの贈り物として贈ってくれた**。
神様の愛の言語はキリストなんです。



僕はこのキリストを、自分の王様として、主として、そして友として、最も愛する人として信じています。だから僕は、このイエス様がしてくれた言葉、時間、奉仕、贈り物、触れることは自分にされたと信じています。触れることはできないって思うかもしれないじゃん。あるいは、奉仕とかできないって。今、イエス様は天にいるから、できないって思うかもしれないじゃん。できるんです。

なぜなら、今は**教会がイエス様の体**だからですね。イエス様、教会のことはキリストの体、イエス様はその頭って言われます。一中略一

そうやって教会で僕たちは、イエス様の肌となって、体となって、イエス様のこの愛の奉仕、触れることの時間、言葉を今掛け合っているわけです。イエス様にそうされてきたから、イエス様に対して、また周りの人たちに対して、そうしていきたくて願っています。

みんなのステージは僕にはわかりません。もうすでに父子聖霊なる神さま信じてるって人もいると思うし、そうじゃないという人もいます。

でも、僕が願うことは、本当に、みんなの旅路がどこであれ、僕たちは一生この父の家に帰り続けるし、**父子聖霊なる神の元に帰り続け、知り続ける旅**をしているから、今日よりは明日、明日よりは明日、20年後、30年後、皆が生きてきてく時には、いろんな経験を通して、ぜひこの父子聖霊なる神様のわざを知ってほしいなっていう風に思うし、僕は「人生を喜び、楽しめ」っていうのが神様の最初の命令、約束なので、みんなが本当にこの地に父子聖霊なる神様と愛の交わりに生きる喜び、そして、人に仕え、この世界に仕える喜びに生きてほしいなと願っています。

編集後記

講師の祐也さんは、私が高校の時からのお知り合いで、早稲田に入った後も早稲田 K GK 担当主事として色々関わってくれていました。旧舎監や、現在信愛学舎に関わってくださっている中澤さんともお知り合いだったので、今回は寮の聖書研究をお願いしたいと依頼して『おもしろそう！ぜひ！』と快く引き受けてくださいました。

5月に私が担当した聖書研究で、イントロダクションとして、寮生活をする上でのお互いの理解も含めて「ラブランゲージ」の話と、創世記から自身の信仰の証をさせてもらいました。祐也くんはそれをさらに神様のラブランゲージへと発展、さらに創世記をディスカバリーバイブルスタディの形式で舎生一人一人が聖書をじっくり読み込み、議論を深めてくれました。自身の証も含め、福音を語ってくれた祐也さんに感謝です。

”みんなの旅路がどこであれ、僕たちは一生この父の家に帰り続ける、父子聖霊なる神の元に帰り続け、知り続ける旅をしているから、今日よりは明日、明日よりは明日、20年後、30年後、皆が生きてきてく時には、いろんな経験を通して、ぜひこの父子聖霊なる神様のわざを知ってほしい”

この言葉を聴きながら、私の中には、「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。」(伝道者の書 12 章 1 節) というみことばが思い起こされました。

以下、舎生の感想をいくつか抜粋します。

”私も父の家に帰っていけるようになりたい”

”すごく楽しかった。信頼関係のある寮生だからこそ、面白い議論になった。またやりたい。”

”全く新しいアプローチで本当に面白かった。”

”聖書を読まない！と思った。”

”国語の授業のように学び、純粋な気持ちで聖書と向き合い、疑問をぶつけるのが楽しいと感じられた。純粋な気持ちで読むことで聖書を好きになれるような気がした。”

”旅路にいるという表現が気に入りました。私も旅路にいるのかなあ”

舎生の正直な感想を読みながら、共に創造者を覚えることができ、とても喜ばしい気持ちです。信愛学舎で聖書を学ぶこと、聖書研究の在り方を考えることは、私にとっても自身と神様との関係を見つめる日々となっています。人生で最も若い日は今日です。私も、一番若い今日この日に、創造者なる主を覚えて生きたいと願います。

【編集後記】

今回のZOEは盛りだくさんですね。いろんな舎生にお願いしたので、バラエティの富んだ内容となっております。聖書の学びの活発化、YMCA 活動の活発化もうれしく思います。個人的には、ずっと舎生に見てほしかった『ファイヤーストーム』を映画会で開催でき、いろんな舎生が観てくれて、感想を持ってくれたことが嬉しかったです。今年度は残念ながら新入生の獲得が少なく、今年度卒舎する舎生も多いので、今年できるだけいろんな活動を残していこうという意気込みを感じる半年でした。(S)

今年度より日中は働きながら早大 YMCA アドバイザーとして奉仕をしている S です。今年はコロナ明けということもあり舎生それぞれが忙しく活動をしているように見受けられます。それゆえに舎生会などお互いの意見がぶつかりあうことも度々ありますが、そうした衝突も信愛学舎でしか得られない貴重な体験なのではないでしょうか。

私は舎生の活動をサポートしながら、舎生と理事会・評議員などの皆様、OBOG の皆様がお互いにとってよりよい形でつながれるよう今後も活動していくつもりです。私一人でできることは多くはありませんが、皆様のお力をお借りしながらこの早大 YMCA 信愛学舎がよりよい寮になり、よい人材が集まってくることを期待しています。今後ともご支援ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。(S)